

FFGのお取引先企業をご紹介します。

株式会社 アグリス

代表取締役 **中村 裕之氏**

取引店 福岡銀行 八女支店



株式会社 風雅

代表取締役 **塚田 強男氏**

取引店 熊本ファミリー銀行 花畑支店
福岡銀行 熊本営業部



株式会社 ホーセイ

代表取締役社長 **池田 豊氏**

取引店 親和銀行 本店営業部





株式会社 アグリス

代表取締役

中村 裕之氏

創 業：1990年9月 設 立：1990年9月
 所 在 地：福岡県八女市 資 本 金：8,800万円
 従 業 員：62名
 事業内容：農業用生産資材の開発、製造、販売および医療用機器・
 器具・備品の開発、製造、販売
 事業拠点：福岡県八女市(本社、工場)、東京都千代田区(支店)、
 大阪市中央区(営業所)

専門商社での経験を生かして 自社開発に進出

- 当社は1990年(平成2年)9月に、福岡県八女郡立花町(現在の福岡県八女市立花町)にて創業しました。創業当初は、検査・実験室で使用されるテープを、果樹の栽培等で必要な「接ぎ木」用テープに応用して販売していました。

しかしながら、もともと私は人工透析用機器を扱う専門商社の営業マンだったことから、人工透析に必要な消毒道具(綿棒や綿球、ガーゼ、ピンセット、絆創膏等)をプラスチックトレーに全て揃えて滅菌した、使い捨て方式の「透析ケアセット」を自社商品として販売する為、その開発に着手しました。

トレーの大きさや形状等について、試行錯誤を重ねた結果、93年(平成5年)ようやく商品化することが出来ました。高齢化社会を背景に透析患者が増加する中、折しも人工透析の保険点数引き下げにより、人件費の削減・抑制を検討している医療機関が増えていることや、器具消毒のしづらさによる院内感染の問題が注目されるようになってきたことが更なる追い風となりました。使い捨てセット

を導入することによる医療現場の省力化や院内感染のリスク削減効果についても、医療機関にご理解頂くにつれて、販売数は年々増加していきました。

開発当初は、月間で1万セットにも満たなかった出荷数でしたが、既存の工場の生産能力では、受注増への対応が難しくなったことから、2001年(平成13年)に、現在の本社がある八女市に本社・工場を新設・移転し、増産可能な体制を整えました。現在では、月間約200万セットを出荷するまで増加しています。

常に現場で何が求められているかを意識

- 創業以来、常に作業現場で何が求められているかを注視してニーズに合った商品開発を実践するようになっています。

透析ケアセットについても、他社との競合の中で当社が高いシェアを確保出来ているのは、常にお客様のニーズを把握し、それにお応えしているからであると自負しています。

例えば、透析の為の消毒といっても、医療機関ごとに微妙にやり方は異なっていることから、ケアセットについても「綿棒をもう1本増やしてほしい」や「もっと大きなガーゼに替えて欲しい」等といったご要望が出てきます。これらのご要望に対応するには、オーダーメイドで商品を作る必要がありますが、通常は生産効率を考えると、多品種少量生産での対応は

難しいのが一般的です。しかしながら、当社はこれらのご要望に取ってお応えすることで、お客様からの信頼を頂いてきました。

また、従来の透析ケアセットに1回分の消毒薬液入りカップを付属した、業界初となる消毒処置用キットについても10月に発売の予定です。今までのようにケースに消毒液を注ぐ必要が無くなり、このキット単体で消毒処置が可能となりました。

現在、病院・医療施設では感染対策、医療事故対策等、経営の効率化を図る為に機能評価や手技の統一化等が広く検討されていますので、この新しい処置用キットは透析施設だけでなく、病院の消毒処置全般に利用が広まると予測しています。また、アウトドアや学校・スポーツ団体にも利用可能と思います。

今後は、医療機器製造・販売業としての生産技術や品質管理等、製造技術管理体制の更なるレベルアップを図るべく、有能な人材の確保にも積極的に取り組んで参ります。

農業設備だけでなくソフト面もサポート

- 農業資材部門においても、全国有数のいちご生産地である九州の地域性を活かす為、いちご栽培用の資材を自社開発しました。棚状の設備で栽培を行うことによって、地面に直接栽培する時のように腰を曲げることなく立ったままで作業が出来るようになり、大幅な作

業の効率化を実現すると同時に、栽培面積の増加による収穫増も可能とした「アグリス式高設栽培システム」を開発しました。

更に、いちご栽培の支援業務を行う「栽培指導室」を設置したことで、当システムを導入して頂いた農家への技術指導やアフターフォロー等、ソフト面での支援が可能となり、農家の収益力アップと省力化にも貢献しています。

また、地元八女市の大型健康増進施設「べんがら村」に隣接した、当社の子会社が経営するいちご観光農園では、当システムでいちごを栽培している為、お子さんや車椅子の方等多くの方がいちご狩りを楽しんで頂けます。

そのような当社の取り組みが評価され、埼玉県越谷市より、恐らく全国初の事業となる「都市型農業経営者育成支援事業」において、当社が研修指導についての業務委託を請けました。それに伴い研修用施設として、農業技術センター内にいちご観光農園をこの冬開園する予定です。当社のいちご高設栽培システムの評価や宣伝効果も期待出来ることから、関東周辺での営業展開に大きく活用したいと

考えています。

新たなステージに向けて

- 現在、更に利便性・機能性の高い簡易消毒用具の開発にも取り組んでおり、国内だけにとどまらず、海外への営業展開も今後は検討していく予定です。その為にも、医療機器の品質保証の国際基準であるISO13485については2年後を目処に取得したいと考えています。

また、アグリス式高設栽培システムの機能性、利便性を更に追及した新たなシステムを福岡県農業試験場の協力・指導を得て、今秋完成する予定です。

当社は、おかげさまで今年創業20周年を迎えることが出来ました。人間にとって最も身近で大切であり、且つ欠かせない産業である農業と医療において、新たな価値を創造し、社会の進歩、繁栄のお役に立ちたいと思っています。そして、どこにもない商品開発で新たな市場の開拓を実現したいとも考えております。今後5年間で100億円企業を目指していく中期計画も策定致しました。その実現に向かって社員一丸となって成長を続けて参ります。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

人間にとって最も身近で欠かせない産業である農業と医療において、常に現場のニーズを満たすような商品やシステムの開発をされてこられました。数多くのご苦勞もあつたものと拝察致します。

今後も引き続き、当社の高い先見性を活かした商品開発により、新たな市場開拓の実現を期待するとともに、更なる目標やステージに向けてご発展されることを祈念致します。



【新製品】『テアテック』と『ES キット』（処置用キット+外皮消毒液）



ケアセット結込作業



密封されて出てくるケアセット



いちご高設栽培システム



Buddy-Tape
(接ぎ木テープ：海外40カ国で使用)



工場見学の様子



左から古城戸支店長、中村社長、
諫山総務部長、谷頭取

株式会社 風雅

代表取締役

塚田 強男氏

創 業：1990年 9月 設 立：1990年 9月
 所 在 地：熊本県熊本市 資 本 金：4,600万円
 従 業 員：35名
 事業内容：海苔菓子・加工海苔の製造及び卸小売
 事業拠点：熊本県熊本市(本社、物流センター、直営小売店)、
 福岡県太宰府市(営業所、直営小売店)、福岡市、
 宮崎県宮崎市、京都市(直営小売店)



海苔の製造卸業から分社

- 私は1965年(昭和40年)より、当社の親会社である海苔の製造・卸会社に勤めておりました。ここでは主に量販店向けに海苔を卸していましたが、私は海苔だけでなく、より付加価値の高い商品を販売したいとの思いから、お酒のつまみとして食べられている豆類を自慢の高級海苔でくるんだ商品を開発しました。これが現在当社の看板商品となっている「風雅巻き」です。

85年頃に地元の百貨店で試験的にこの商品を販売しましたが、最初は知名度も無く、なかなか売上には繋がりませんでした。しかしながら、試食による販売を地道に行ったことでお客様にも認知され始め、また海苔でくるんでいる為食べやすいこともあって女性からの支持も頂けるようになると、次第に売上も増加していきました。そして、風雅巻きの販売が事業として軌道に乗り始めたことから、当時の社長に分社化を申し出て、90年(平成2年)に現在の会社を設立。社名は、看板商品名から採用し且つ高級感があるものにしたという考えから「株式会社風雅」としました。

現在、当社の商品は百貨店での

販売に加え、直営店として熊本県内の4店舗のほか、福岡県、宮崎県、京都府に4店舗の計8店舗で販売しています。今日に至る迄で苦労した点は、営業力の強化でした。当社は百貨店に商品を卸している為、百貨店のバイヤー様との交渉力が売上を伸ばす鍵となります。創業当初は、大手百貨店に対する営業ノウハウが乏しく、関東や関西等都市圏での売上が思うように伸びませんでした。しかし、地道に営業を重ねることで、次第に大手百貨店のバイヤー様との親交も深まる一方、ある大手菓子メーカーのOBの方々数名に当社での勤務を勧めたところ、快く引き受けて頂きました。このOBの方々のお陰で大手百貨店に対する営業が強化されただけでなく、その営業ノウハウを学ぶことで他の営業社員への良い刺激にもなっています。

海苔にこだわった看板商品

「風雅巻き」

- 当社の看板商品である「風雅巻き」は、大豆やピーナッツ、カシューナッツ等の豆に衣を付け、わさびや醤油、梅等、様々なスパイスでバリエーションに富んだ味付けを施し、その豆を有明海で獲れた色、味、艶ともに優れたパリパリの焼海苔で一本一本手巻きしています。この「風雅巻き」は特に素材にこだわりました。使用する海苔は、有明海で10月頃に種付けし若摘みされた海苔、いわゆる一番海苔であり、甘みがあり、色艶が良く、さらに口溶けの良い最高峰のものに限定しています。

豆は、大豆、落花生、ソラマメ等を使用していますが、特に大豆は国産で良質な佐賀県産のものを使用しています。さらに、寒梅粉(寒梅が咲く季節に新米のもち米から精製した良質の粉)で豆をコーティングする等、当社独特の製法により味、香り、食感いずれも楽しめる商品に仕上げています。

また、素材だけでなく製造方法にもこだわりを持っています。豆を焼海苔で巻く作業は機械を使用せず、熟練した職人の手作業で製造しています。機械化により大量生産させた方が効率的ですが、より真心のこもった美味しいものをお客様に食べて頂きたいとの思いから、一本一本丹精を込めて手巻きしております。こうした品質へのこだわりが、「風雅巻き」の評価に繋がっているものと自負しております。

役職員全員で経営を考える

- 当社では、「使命感」「機能分担」「成長発展」を経営の基本方針としています。

「使命感」とは、社内では協調と調和を尊重し、お客様やお取引先に対しては謙虚な姿勢で誠意と誠実を基礎としたサービス精神をもって対応することであり、全役職員に徹底しています。

「機能分担」とは、業務を円滑に推進する為に、各人が与えられた職務を忠実に責任もって果たすとともに、他との協調を図ることを求めています。

「成長発展」とは、事業を発展させ、社員が豊かになり且つ人間

性の成長を遂げ、社会貢献が出来るようになることを指しており、社員、企業の成長とともに社会の発展にも努めています。このような方針の下、私どもは役職員一丸となり、地域とともに成長していきたいと考えています。

具体的には、毎年「経営方針書」を作成し、年度始めに全社員を集めて、役員や幹部社員より今年度の方針として発表しています。この方針書は、1年の短期、5～6年の中期、10年以上の長期と、それぞれの期間でのビジョンや方針を定めていますが、毎月その進捗状況をチェックしています。更に半年毎に進捗状況に応じて事業計画の修正を行い、毎月の決算を予測し、状況によっては方針変更を行う等、きめ細かい経営に努めています。

経営方針書の作成を始めたのは、創業資金の融資を受けた熊本ファミリー銀行の指導によるものでした。当初はどのように作成してよいか勝手がわからずA4用紙1枚程度のものでしたが、今では数十ページに及んでいます。このような取り組みも今年で21年目を迎え、方針書の作成や見直し等を通

じて社員の経営参加に対する意識向上に繋がっています。

海苔の美味しさをさらに広めるために

- これからの事業展開としては、2年後に増資を行い、現在の本社機能を拡充させる為に新築移転する予定です。さらに、お客様のご要望等に迅速に対応出来るようにコールセンターの開設も目指しています。また、現在は全体の売上構成比率の3分の1を占める直営小売店や通信販売について、一般個人のお客様のリピート率を5割にまで高めたいと考えています。

今後の目標として、地元熊本県内においては、熊本発の全国区のお菓子となるよう、より一層のブランドの定着を目指すとともに、熊本県外においても直営店を通じて「風雅巻き」のファンを広げ、百貨店の持つ集客力やブランドイメージも最大限に活用しながら、「風雅巻き」の知名度を向上させたいと考えています。

これからも、「風雅巻き」をはじめ、皆様に喜んで頂けるような商品づくりを役職員全員で目指して参ります。



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 林 謙治

「風雅巻き」の厳選された素材に加え職人さんが一本一本海苔で豆を丹念に手巻きされる製造方法等、社長様のこの商品に対する想いに大変感服致しました。これまで当社が成長されてこられたのも、このような商品へのこだわりや堅実な経営姿勢によるものと存じます。既に「風雅巻き」は熊本の銘菓として幅広く親しまれていますが、さらに全国的なブランドとして飛躍されるとともに、当社が益々発展されますよう祈念致します。



風雅巻き



「風雅巻き」の手巻き作業



製造ラインの説明



本社ビル



直営小売店



左より林頭取、塚田社長、米村支店長



株式会社 ホーセイ

代表取締役社長

池田 豊氏

創 業：1974年 8 月 設 立：1974年 8 月
 所 在 地：長崎県佐世保市 資 本 金：2,800万円
 従業員：59名(グループ全体190名)
 事業内容：艦艇・一般商船修理及びメンテナンス
 (グループ企業)特別養護老人ホーム運営、
 不動産販売・賃貸、農産物販売、技術者派遣
 事業拠点：長崎県佐世保市(本社、工場、事業所、特老施設、直販所)、
 不動産管理事務所)、長崎県西海市(直販所)

艦艇のメンテナンスで 高度な技術力を提供

- 米海軍や海上自衛隊の艦艇は、一般の商船に比べ厳しい環境下での運航が多く船体の損傷も激しくなりがちです。また、緊急時における対応のほか、船体の状況に応じて臨機応変にメンテナンスが必要とされる為、大きな負荷がかかります。とともに高度な技術力が求められます。

例えば、艦艇のエンジンのオーバーホール(分解した上での修理・点検)にしても、艦内の限られたスペースの中での作業は、非常に煩雑です。さらに、あらゆる状況下でもトラブルひとつ無く常時稼働出来る状態に整備しなければなりません。このように、艦艇のメンテナンスを安定して受注出来るのも、長年の経験の積み重ねにより蓄積した技術力と社員一同の研鑽や努力によるものと確信しています。

艦艇修理部門において 国内で初めてISO9001を取得

- 当社では基本理念として、「人の和」「実行」「責任」を事業の原点として創業当初から掲げ、その下で業績目標や業務への取り組み姿勢等、毎年行動スローガンを決定し、実行するように努めて参りました。この3つの基本理念は、企業経営において必要なものとして、今日まで私をはじめ社員皆で守り続けてきたものであり、今後も徹底していきたいと考えています。

また、この理念をより具体的に

進める為に2002年(平成14年)国際標準化品質マネジメントシステムであるISO9001を艦艇修理部門において取得しました。この部門でのISOの取得は我が国では当社が初めてです。以前の現場と言えば、工場内には部品が散在し、雑然として油にまみれて見た目も決して良くありませんでした。しかし、同業他社との競争に勝ち残る為には国際的な信用力を高める必要があると考え、社員の意識改革の一環としてISO取得に取り組みました。その際、大手造船メーカーよりアドバイザーを招き入れ、ネジの1本に至るまで番号を振り分けて在庫管理を行う等、現場をはじめ、全ての部署の業務を見直しました。そして受注から修理、検査までの全工程をマニュアル化し、業務や作業品質の不備を厳しくチェックするシステムを構築しました。その結果、作業や部品の発注等様々な面で業務の効率化を実現するとともに、社員の職場環境の整備に対する意識向上にも繋がっています。

さらに、当社は米国のエンジンメーカーであるFDGM社の日本唯一の代理店として認定され、米軍掃海艇エンジンの技術提携が出来たのも、このような取り組みが評価されたものと思います。

「社会奉仕の精神」で 事業の多角化に取り組む

- 現在、社会奉仕や地域に対する貢献に注力したいと考え、福祉事

米海軍佐世保基地における民間への業務委譲が独立のきっかけ

- 私は、父が経営していた建設会社に就職し、地元の大手造船メーカーの下請けとして船舶の塗装やプラント工事等に携わっていましたが、独立のきっかけは、米海軍佐世保基地の機能縮小に伴い、民間に業務の委譲が進められたことです。1974年(昭和49年)に、私は基地を退職した技術者20名とともに新たに艦艇のメンテナンスを行なう会社を設立しました。社名は、私自身の名前と「事業が繁栄し豊かに成るように」との想いから「株式会社豊成工業」としました。そして、米海軍等から艦艇のメンテナンス業務を安定的に受注出来るようになると、当社の経営も軌道に乗り始めました。

その後、83年(昭和58年)に同業7社により佐世保立神工業協同組合を立ち上げるとともに、国、長崎県、佐世保市の協力により米軍用地の払い下げを受け、翌年には新社屋を建設しました。92年(平成4年)には、社名を現在の「株式会社ホーセイ」に変更し、現在に至ります。

業、農産物直販事業（産地直販所「西彼とれたて処」）、不動産管理事業等、グループ企業において事業の多角化を行っています。

私は、これまでに企業活動を通じて地域の多くの方々との親交を図る中で、友人達と親しく交流することが出来るような老人の集う福祉村を作りたいとの夢を抱きました。その夢の実現に向けて、05年（平成17年）に、社会福祉法人清真会を設立し、特別養護老人ホーム「音羽の浜」を開設しました。この施設は、「私自身が入りたい施設、受けたい介護」をコンセプトに、室内を明るくする為に窓を大きくしガラス張りのスペースを増やしたほか、施設の利用者の方々が少しでも自宅に居る様な環境で過ごして頂けるよう、家具等の持ち込みを可能にしています。また、アメニティに配慮した個室での生活支援「個室ユニットケア」にも取り組み、プライバシーを大切に空間づくりをしています。さらに、一時的な利用のショートステイやデイサービス、小規模多機能ケア等、様々なサービスを提供しています。

また、「常に利用者の方々の立場に立って対応する」という運営理念を掲げ、全社員とともにその理念に沿った行動を心掛けています。特に、接遇に関してはいつも笑顔で接することを実践するよう指導し、利用者の方々によりご満足頂けるサービスのご提供を目指しています。

広く社会に貢献できる 企業を目指して

- 今後の事業展開としては、スムーズな世代交代が出来るように、事業内容の充実を図り、経営基盤の強化に努めたいと考えています。

具体的には、主力の艦艇等のメンテナンスに関しては、品質管理を徹底すべく専門部署を設けるとともに、技術継承に向けた人材への投資を行い、更なる技術の向上を目指します。また、そこで培ったノウハウを活用しながら民間施設整備、公共的な事業、さらには高齢化社会を見据えた福祉事業等にも取り組み、これからも「広く社会に貢献できる企業」を目指して、高度な技術の提供と新たな価値の創造に邁進して参ります。



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫

当社は長年に渡り米海軍等の艦艇のメンテナンス業務に携わられ、また我が国で初めて、艦艇修理部門においてISO9001を取得される等、数々の実績をお持ちです。また、社長様のこれまでの企業経営のご経験等から、福祉事業をはじめ経営の多角化を進めていらっしゃると思いますが、どの事業におかれましても常に利用者の方々やお客様の立場に立って事業に取り組んでおられることに感服致しました。今後も地域に求められる企業として益々ご発展されることを期待しております。



本社工場内



工場内での作業説明



産地直販所「西彼とれたて処」



特別養護老人ホーム「音羽の浜」外観



特別養護老人ホーム「音羽の浜」



前段左より伊福総務部長、鬼木頭取、池田社長、
後段左より白石本店営業部長、団工場長